保育園看護識者の役割遂行状況と看護識者に対する保育士・保護者の認識

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 留美子, 棚町, 祐子, 田中, 沙季子, 山口, 絵梨子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/5513

研　　究

保育園看護職者の役割に関する実態調査（第1報）

―保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識―

木村留美子[1)]，棚町　祐子[2)]
田中沙季子[3)]，山口絵梨子[4)]

〔論文要旨〕

保育園看護職者の役割を検討するために，保育園における看護職者の役割遂行状況とそれに対する保育士，保護者の認識を調査した。I県内の保育園看護職者の充足率は19.7％で，ほとんどが乳児クラスを担当していた。また，小児科経験者は20.8％と少なく，十分な役割が果たせていないと感じていた。保育士は看護職者の配置を心強く感じている者が多かったが，保護者は看護職者の配置を正確に把握していない者が40％いた。

今後は，小児医療経験のある看護職者を全保育園にフリー配置し，各々の専門職者と協同して子どもの健やかな発達を保障できる環境を整えることが必要である。

Key words：保育園看護職者，配置形態，役割遂行，保育士，保護者

I．はじめに

近年，女性の社会進出に伴う共働き家庭の増加から，特に低年齢児の入園が著しく増加している[1)]。また，おとなの夜型生活に伴う子どもの生活習慣の乱れ，虐待，育児放棄など，広範囲にわたる年齢層の子どもへの育児環境の問題が生じている[2)]。

このような中で，保育園は乳幼児の健やかな育ちを保障する場として重要であり，乳児が9名以上在園する保育園では看護職者の配置が推奨されている[3)]。これは，乳児が疾病に罹患しやすく，また急変により重篤な状態に陥りやすいことによる。しかし，昨今のように子育てに関する問題が多岐にわたる場合には，乳児だけではなく幼児への配慮も重要である。さらに，次世代育成支援も推進され，保育の充実や多様な支援が求められる中で，看護職者の全園配置のニーズは一層高まってきている。

しかし，このような状況にあって，保育園看護職者に求められる役割や，その役割を遂行するための環境の整備や検討は十分とはいえない。そこで，本研究では保育園看護職者に求められる役割とその遂行状況，およびそれに対する保護者や保育士の意識を報告する。

II．用語の定義

「保育園看護職者」は看護師，保健師，助産師等の資格を有し，保育園で勤務している者とした。看護職者が配置されている保育園を「配

The Survey on the Role of Nursery School Nurse (Part I)　〔1773〕
―The Role Performance Situation of the Nursery School Nurses and the Recognition of the Childcare Workers and the Parents for the Role of Nurse―
受付 05.12.26
採用 06. 7.29
Rumiko KIMURA, Yuko TANAMACHI, Sakiko TANAKA, Eriko YAMAGUCHI
1）金沢大学大学院医学系研究科（研究職）　2）金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程（大学院生）
3）東京慈恵会医科大学附属病院（看護師）　4）富山県立中央病院（看護師）
別刷請求先：木村留美子　金沢大学大学院医学系研究科　〒920-0942 石川県金沢市小立野5-11-80
Tel：076-265-2549　Fax：076-265-2513

置園」，配置されていない保育園を「未配置園」とした。また，看護師がクラスを担当していない配置形態を「フリー配置」，担当している形態を「クラス担当配置」とした。保育園に看護職者が１名配置されている場合を「単独配置」，２名以上の場合を「複数配置」とした。

Ⅲ．研究方法

1．対　象

Ⅰ県内の公立，私立の認可保育所・保育園（以降，保育園とする）で調査に同意の得られた保育園の看護職者，保育士，保護者を対象とした。対象となった保育園は，Ⅰ県全域から無作為に抽出され，回答のあった67ヶ所の保育園に勤務する看護職者48名，保育士425名，および保護者2,190名である。そのうち有効回答数は，看護職者48名（100.0％），保育士375名（88.2％），保護者2,170名（99.1％）であった。

2．調査方法

看護職者，保育士，保護者の各々に，自記式質問用紙を用いて調査を行った。調査用紙の作成にあたっては，県内で開催された保育園看護職者の研修会で協力の得られた看護職者と１ヶ所の保育園の保育士や保護者を対象に予備調査を行い，その結果を検討し，調査項目を修正，追加した。

本調査は，平成16年８月３日から11月18日であり，同意の得られた保育園毎に調査用紙の配布，回収を行った。調査内容は別紙の質問紙に示した。

3．分析方法

結果は，EXCEL統計Ver.5.0と統計解析パッケージSPSS Ver.12.0J For Windowsを用いて分析を行い，割合比較はχ^2検定を行った。自由記載で得られたデータは，研究者間で類似した意味を持つものに分類し，カテゴリー化した。

保育園における看護職者の役割遂行に関する調査（看護職者用）

地域：[　　]　　記入日　　月　日

年齢：(　　)歳	あなたは：[看護師 ・ 保健師 ・ 助産師]	保育園勤務：(　　)年	
性別：男 ・ 女	病院等での経験年数：(　　)年　そのうち小児科経験年数：(　　)年		
勤務形態：(常勤 ・ 非常勤)	配属状況：[フリー ・ クラス担任(　)歳児クラス]		
看護職員数(あなたを含む)：(　　)名	全園児数：(　　)名	乳児数(0歳児)：(　　)名	

★該当する記号に○をつけ、[　]の中には具体的な内容やあなたの考えをお書きください。

Ⅰ．様々な子どもの問題が発生する中であなたは保育園の看護職者として十分な役割がとれていますか。
[a. はい　b. どちらともいえない　c. いいえ]
その理由をお書きください。

Ⅱ．現在、保育園における看護職の配置は、乳児が一定数いる園に限られていますが、このことについてあなたはどのようにお考えですか。また、ひとつの園に看護職者は何名必要かも含めてお書きください。

Ⅲ．保育園における子どもたちの健康管理についてお尋ねします。
1)保護者に対して児童票への記入依頼はいつ行っていますか。
[a. 入園時　b. 毎年(申請時など)　c. その他(　　)]
・児童票は全児童に対して同じ内容ですか。[a. はい　b. いいえ]
・児童表の内容を、いつ、どのように活用していますか。
いつ：
どのように：
2)あなたは、子どもの健康状態を把握する際、どのようなことに注目していますか。
3)毎日の子どもの健康状態を把握する上で、困ることはありますか。(複数回答可)
a. クラス担任をしているため、全園児を把握する時間がない　b. 保育士との情報交換が十分に行えない
c. 登校の様子を把握していないが、何かあった時だけ相談される　d. 登園時に保護者から連絡が十分にない
e. 園児数が多い　f. 特になし　g. その他(　　)
4)健診時以外にも嘱託医との連携を持っていますか。[a. はい　b. いいえ]
・「はい」と答えた方は、どのような目的で行っていますか。
・「いいえ」と答えた方は、その理由をお書きください。
5)気になる子どもや継続して支援が必要な子どもについて、小学校と連携をとっていますか。
[a. はい　b. いいえ]
・「はい」と答えた方は、それはどのような内容についてですか。

6)あなたの保育園では「保健だより」を発行していますか。[a. はい　b. いいえ]
・「はい」と答えた方は、年に何回発行していますか。[　回／年]
・また、「保健だより」に書く内容で、重要視していることを3つまでお選びください。
a. 毎年決まったテーマ　b. そのとき、社会で流行している病気　c. 保育園で流行している病気　d. 健康増進
e. 社会問題となっている事件　f. 保護者からの相談・ニーズ　g. 保育士からの相談・ニーズ
h. 研修会などで得た情報・知識　i. 子どもの成長・発達に関すること　j. 園児の様子を見ていて気になったこと
k. その他(　　)
・回数や内容に関しては十分だと思いますか。[a. 十分だと思う　b. 不十分だと思う]
その理由をお書きください。
7)あなたが、集団感染に関する指導を行う上で、気をつけていることはどのようなことですか。
子どもに対して：
保護者に対して：
スタッフに対して：
上記のことを行う上で困ることなどお書きください。
8)あなたの保育園では病児保育を行っていますか。[a. はい　b. いいえ]
それについてあなたの思いをお書きください。
9)ケガや体調が悪化した子どものお迎えまでの間の対応で困ることがあればお書きください。
10)あなたの保育園で与薬を行っているのは[a. 看護職　b. 保育士　c. 行っていない　d. その他(　　)]
保育園における与薬のあり方について、あなたの考えをお書きください。

Ⅳ．保育園での相談と指導についてお尋ねします。
1)保護者からの相談の内容はどのようなものが多いですか。具体的にお書きください。
・それに対して十分な対応が行えていますか。[a. はい　b. どちらともいえない　c. いいえ]
2)看護職として、スタッフへの助言を行っていますか。[a. はい　b. どちらともいえない　c. いいえ]
・「はい」と答えた方は、その内容をお書きください。

Ⅴ．研修会などについてお尋ねします。
1)専門性を高めるために、年に何回、研修会等に参加していますか。[　回／年]
2)今後どのような研修会に参加したいと思いますか。(複数回答可)
a. 子どもの成長発達　b. 障害児との関わり　c. 子どもに多い病気　d. 応急処置　e. 救急蘇生　f. 感染症対策
g. 保育園での看護職者の役割　h. こころのケア　i. 保護者への対応　j. その他(　　)
3)研修会など、他の保育園看護職者と情報交換できる機会を望みますか。[a. はい　b. いいえ]

★記入もれや記入ミスがないか、もう一度確認してください。

質問用紙（看護職者用）

4．倫理的配慮

各保育園の園長に調査の目的・方法を説明し，承諾の得られた保育園では調査対象者に対して園長からの依頼文を添えて調査依頼を行った。調査依頼には研究の目的，活用方法，および調査への協力は任意であり，回答の有無により不利益は被らないこと，調査で得られた結果は研究以外では使用せず，プライバシーは厳守されることを伝え，同意を得た。回答は無記名とし，返信用封筒を同封して封をした状態で保育園毎に回収した。また，調査協力園に対しては全体の傾向に関する報告を約束した。

Ⅳ．結　　果

1．対象の属性

1）保育園

Ⅰ県内の保育園数は422ヶ所であり，調査園はその内の67ヶ所（15.9%）であった。配置園は県全体では83ヶ所（19.7%）であった。調査園67ヶ所のうち，配置園は47ヶ所で70.1%(対県比56.6%)，未配置園は20ヶ所で29.9%(対県比5.9%)であった。

2）保育園看護職者

保育園看護職者の勤務年数は，全体の平均が4.1±5.9年であり，5年未満の者は68.7%，そのうち1年目の者は29.2%，5年以上の者は31.3%であった。病院勤務経験は平均7.2±7.1年であり，そのうち小児科勤務経験者は20.8%であった。クラス担当配置は81.2%で，そのほとんどが0歳か1歳児のクラスを担当し，フリー配置の者は18.8%であった。単独配置は87.2%，複数配置は12.8%であった。

3）保育士

保育士の内訳は，主任保育士が10.9%，担任保育士は89.1%であった。平均勤続年数は，主任保育士が24.2±6.7年，担任保育士が10.2±8.3年であった。配置園の保育士の割合は69.9%，未配置園は30.1%であった。

4）保護者

保護者の内訳は，母親が95.4%，父親が3.6%，祖父母が0.5%，無記入が0.5%と母親がほとんであった。平均年齢は母親が32.6±4.3歳，父親が35.3±6.8歳であった。保護者の56.8%が配置園，43.2%が未配置園であった。

2．保育園における保健活動状況

1）児童票の活用

児童票は子ども自身のことや家庭状況が書かれているため毎年確認し，必要に応じて更新する必要がある。しかし，この児童票を毎年保護者に確認の依頼をしていたのは，未配置園が45.0%，配置園が75.0%であった。

図1は，配置形態別に保育士の児童票の活用目的を比較したものである。未配置園では［健

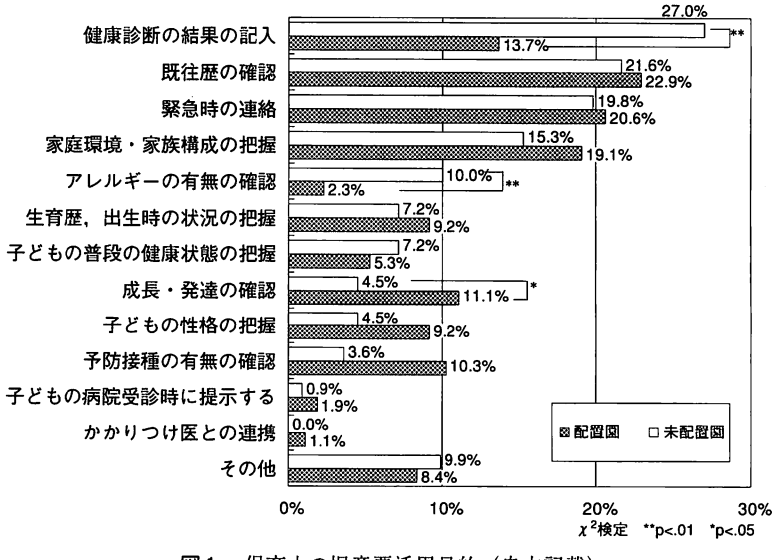

図1　保育士の児童票活用目的（自由記載）

康診断の結果の記入]，[アレルギーの有無の確認] に活用している割合が高く(p<.001)，配置園では[成長・発達の確認]のために活用していた(p<.05)。このように，看護職者の配置の有無により保育士が児童票を活用する目的は異なっていた。

2) 保健だよりの発行

保健だよりを発行している割合は，未配置園では15.0%，配置園では81.3%と，圧倒的に後者の割合が高かった(p<.001)。配置園の保健だよりは，看護職者が季節毎の健康管理や健康増進を中心に独自に作成していた。一方，未配置園は，保健担当の保育士が作成するか，行政からの配布物をそのまま配布するなど配置園との大きな相違がみられた。

3) 専門職者との連携

看護職者が嘱託医と連携して活動している割合は27.1%であったが，その目的は [疾患について分からないことを尋ねる]，[保護者からの質問に回答できないことを尋ねる] などであった。また，連携していない者は [専門が小児科でないため相談できない]，[健診時以外に会うことがない] など，保育園の体制が看護職者の活動内容に影響していた。

図2は，配置の有無別に保育士が専門家などと協同する割合をみたものである。配置園では保育士の80.3%が保育園の看護職者と協同していた。一方，未配置園の保育士は，嘱託医や保健所・保健センターと協同する者が多かった。しかし，未配置園の保育士の中には「専門家と連携していない」と回答した保育士が40.5%と高い割合を占め，十分な保健指導が行えていないことが示唆された。

3. 保育園看護職者の役割遂行状況

1) 配置形態と看護職者の保健活動

(1) クラス担当配置

クラス担当配置の看護職者は [担当クラスの子どもの健康状態は自分で観察するが，他クラスの子どもの状態は担任から連絡を受けるだけなので十分な対応ができない]，[クラスの保育業務に追われ，他クラスの保育士との情報交換は困難] など，全園児の健康状態を把握できない状況に置かれていた。また，[他クラスの子どもについて保育士,保護者から相談されても，普段の様子を知らないので答えられない]，[子どものけが・体調の悪化時は，応急処置だけ行い，あとは担任に任せる]，[担当クラスの投薬状況しか確認できない]，[定期的に保健だよりの作成が行えない] など十分な保健活動が行えないことへのジレンマを抱えていた。

(2) フリー配置

フリー配置の看護職者は [毎朝全園児の健康状態を直接観察する]，[保育室を巡回し，保育士との情報交換を行っている] など，全園児の健康状態を把握していた。子どものけが・体調

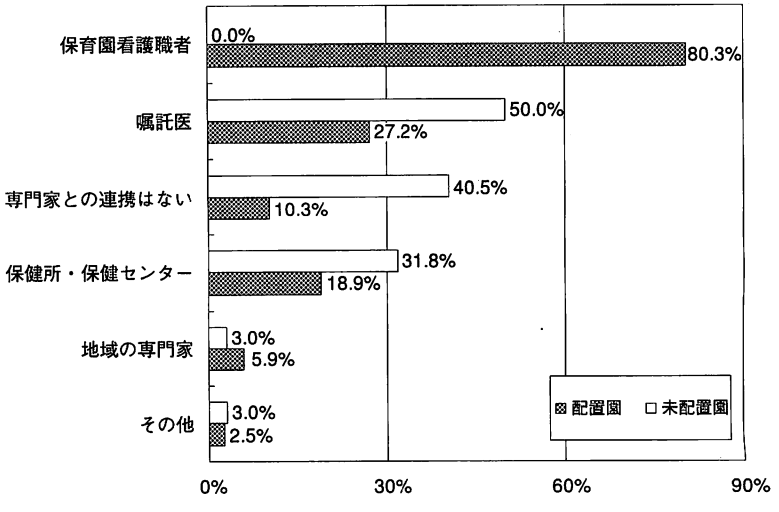

図2 保育士が協同している専門家・機関（複数回答）

悪化時には［処置，子どもへの付き添い，保護者への連絡・説明を行う］，［投薬が必要な子どもの投薬前後の観察を行い担任に投薬方法を指導する］など，全園児や親，保育士に対して十分な役割を果たしていた。また，保健だよりは年6回から12回発行し，保護者への保健指導も担当し，本来の仕事が行えていた。

(3) 複数配置

複数配置の看護職者は［困った時は相談して対応を決める］，［お互いが情報交換を行い，統一した対応を行う］，［一人は乳児クラスを担当し，一人は園全体の保健活動に専念する］など，協力した保健活動を行っていた。

2) 看護職者自身の役割遂行への思い

保健活動を「十分行えている」と回答した者は8.3%，「十分行えていない」と回答した者は87.5%，無記入4.2%であった。「十分行えている」と回答した者は［保健領域については自分に任されていると感じている］と答え，意欲的に取り組んでいた。「十分行えていない」と回答した者は［クラス担当として保育に追われている］が20.9%，［保育士・保護者から保健活動への理解が得られない］が16.7%，［専門職として自分自身の子ども理解が不十分］が7.0%，［体制や設備に活動が制限される］が4.2%であった。

4. 保育士が保健活動を行ううえでの思い

1) 配置の有無と保育士が保健活動を行ううえで困ること

保育士が保健活動を行ううえで困ることを**図3**に示した。［けが・体調悪化時の対処が適切に行えない］がいずれの園でも高い割合を占めていたが，未配置園は38.7%とその割合は配置園より有意に高かった($p<.01$)。また，未配置園では［専門職者がいないので相談できない］，［専門職者（園外）の助言が統一していない］など，適切な助言や指導が受けられない状態にあった。配置園では未配置園と比べて「心のケアを行う技術がない」，［投薬・薬の管理に不安がある］，［看護職者の助言が曖昧で不安になる］など，看護職者の指導の不十分さに対する不満がみられた。

2) 看護職者の配置と保育士の思い

看護職者が配置されている保育園の保育士の思いを**図4**に示した。［すぐに指示を得ることで適切な対応ができた］が最も多く，次いで［看護職者が直接手当てしてくれるので助かる］，［指導内容が詳しく，分かりやすい］など，専門家の指導や対応が十分行われている場合には配置に対して肯定的な思いを抱いていた。

5. 看護職者の配置形態と保護者の認識

保護者に対し，看護職者の配置の有無を尋ね

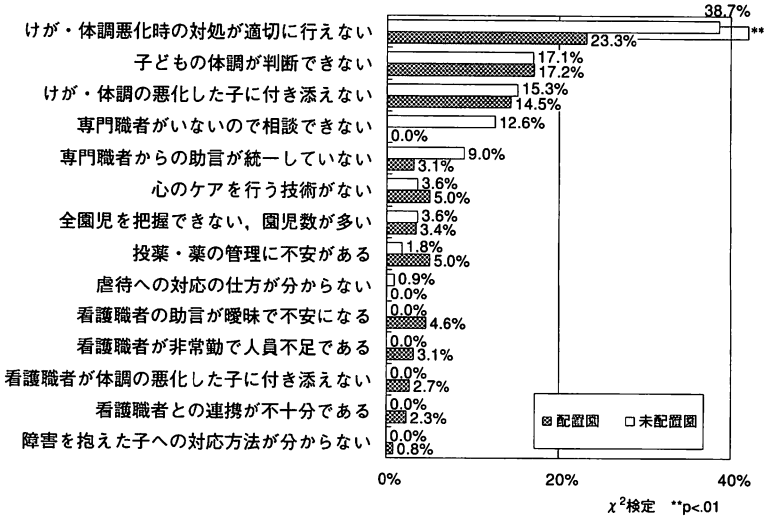

図3　保育士が保健活動で困っていること（自由記載）

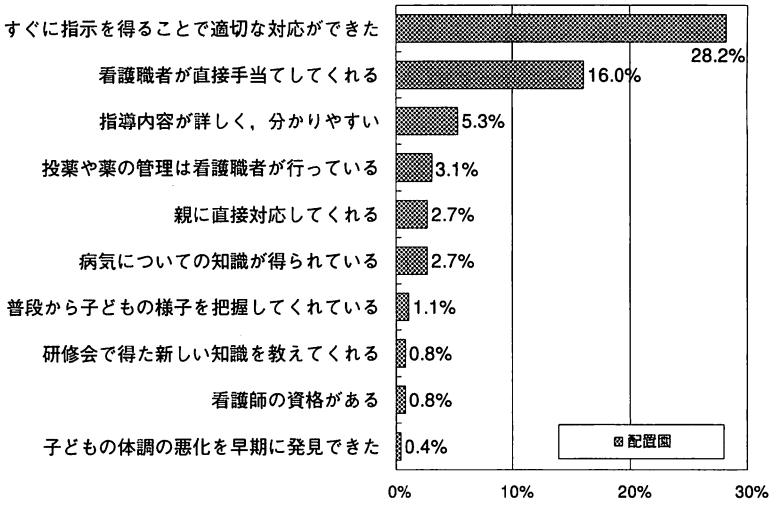

図4　保育士が看護職者の配置を肯定する理由（自由記載）

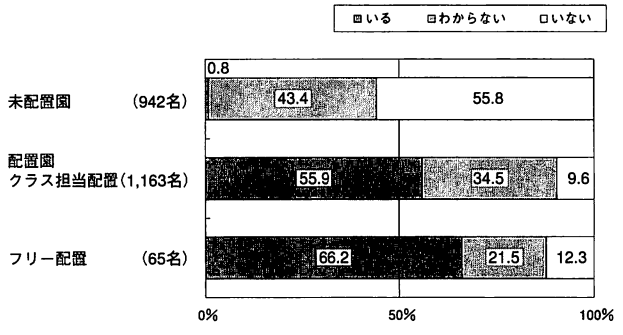

図5　看護職者の配置形態と保護者の認識

たところ，**図5**に示すような回答が得られた。未配置園の保護者が「看護職者は配置されていない」と正しい解答をした者は55.8%であった。クラス担当配置では「配置あり」と答えた者が55.9%であった。フリー配置では「配置あり」と答えた者の割合は最も多く66.2%であった。

また，看護職者の配置を正確に把握している保護者は看護職者の活動を［けが・体調悪化時の対応］が59.5%，［園児の健康管理］が20.9%，その他に［保育士への保健指導］，［保育園の衛生管理］など，看護職者が実際に行っている保健活動を挙げていた。

V．考　　察

I県内の保育園看護職者の配置率は19.7%であり，全国の21.1%[4]より低い状況である。しかし，今後は次世代育成支援による保育内容の充実や多様な支援が求められ，また，さまざまな子どもの問題が取りざたされる中で，保護者が保育園に求めるニーズも多様化し[5)6)]，専門職者間の連携による子育て支援活動の必要性は一層強く求められる。とりわけ保育園看護職者はその要として重要な役割を担っている。

そこで，本研究では，保育園における看護職者の専門性を活かした役割遂行について，その現状と問題点について検討する。

看護職者が配置されている配置園でもほとんどが0歳から1歳児のクラスを担当しているため，保育業務に追われ，全園児の把握や他の保育士との情報交換は不十分である。しかし，看護職者の配置の有無により保育士の児童票の活用目的には相違がみられ，クラス担当配置であっても配置されていることで何らかの役割分担が行われていることがうかがえる。フリー配置

の看護職者は，全園児を対象とした保健活動を担うことができるため，保護者や保育士からの理解も得やすく，地域の専門職者との協同も行いやすい。しかし，フリー配置であっても，看護職者が1名の保育園では，保育士の補助要員として乳児保育を担当する機会が多いとの報告もあり[7]，看護職者が十分な役割を果たすことができる環境を整えることは重要である。

看護職者の複数配置園では全園児の情報を看護職者間で共有し，さまざまな保健活動を展開することができている。

本調査で興味深いことは，保育園看護職者の存在を約4割の保護者が正確に把握していなかったことである。これは，配置形態により看護職者が保護者のニーズや全園児を対象とした保健活動を十分に行えないことがその存在を認知されない理由と考える。さらに，小児医療の経験が少ないことも看護職者自身の専門家としてのあり方に影響を及ぼしていることが考えられる。

以上より，保育園の看護職者は，小児医療の経験を持ち，子どもの発達や現代の子育ての問題を熟知した専門性の高い職業人であることが望まれる。また，体制のあり方としては，看護職者の配置はフリー配置とするか，もしくは複数配置とし，保護者や保育士，他の関連機関や専門職者と協同できる環境を準備することが求められる。このような条件が整うことで看護職者は本来の役割を十分に果たすことができ，子どもの健やかな発達を保障し，現代の親の特徴やニーズを把握した子育て支援，親支援に貢献できるものと考える。

謝　辞

本研究を遂行するにあたり，調査にご協力いただきました保育園の職員の皆様方，並びに保護者の方々に対して心よりお礼申し上げます。

本研究の一部は，第52回小児保健学会において発表したものである。

引用文献

1) 長谷川彗重，村山令二，長田浩志他編．国民の福祉の動向・厚生の指標　臨時増刊．51(12)：東京，厚生統計協会，2004；91.
2) 西村睦美，木村留美子，津田朗子．幼児の生活習慣と発達，第50回日本小児保健学会講演集 2003；262-263.
3) 保育法令研究会．平成13年版 保育所運営ハンドブック．東京：中央法規出版株式会社，2000：748
4) 厚生労働省監修．平成15年 社会福祉施設等調査報告　上巻：東京．厚生統計協会，2003.
5) 齋藤幸子．保育所の保健活動に関する保護者の意識調査 ―保護者の意見の分析―．日本子ども家庭総合研究紀要，2001；39：263-270.
6) 木村留美子．子どもって…ね ―子育ては子どもとおとなの知恵くらべ―．東京：エイデル研究所，2005.
7) 遠藤幸子．保育所保健の実践的研究 (1)保育所における看護職の役割と活用．平成14年度厚生科学研究報告書，2002；443-446.